

受付番号

10

承認番号

大歯医倫 第 110888 号

研究課題名

唾液腺に発生した粘表皮癌の CT, MRI 所見—過去 20 年間に本学を受診した 20 例の後ろ向き研究—

研究責任者

蒲生 祥子

申請者

蒲生 祥子

研究終了日

平成 29 年 3 月 31 日

所属

歯科放射線学講座

所属

歯科放射線学講座

職名

講師

職名

講師

申請の概要

背景: 現在本学では、口腔癌の治療法として外科的切除を計画する際、造影 CT ないし単純 MR 画像により原発巣の進展範囲・頸部リンパ節転移の有無をみるのが通法となっている。しかし、造影剤の投与はアレルギー反応等の副作用を伴う場合があるため、患者の体質によっては慎重な対応を要する。一方、唾液腺に生ずる悪性腫瘍である粘表皮癌は、同じく唾液腺に発生する良性腫瘍である多形腺腫と判別が難しく、両者の画像上での判別法をまとめた報告もまだない。

目的: 低侵襲な非造影 CT ないし MR 画像上で、粘表皮癌の呈しやすい画像所見を系統的に明示する。

対象: 本学附属病院 中央画像検査室にて 1997 年 6 月から現在までの間に CT ないし MRI 検査を受けた粘表皮癌患者 20 名（男女は問わない。）

方法: 歯科放射線学専門医 2 名が別々に、20 例の初診時の CT ないし MRI 所見を再評価し、下記項目に関する様相を記録することで、粘表皮癌の呈する画像所見をまとめる。

① 検知能 ②境界 ③辺縁 ④被膜構造 ⑤内部構造 ⑥周囲とのコントラスト ⑦骨変化

また、粘表皮癌と過去に報告された多形腺腫の画像所見との違いを、典型例の供覧とともに論文として発表する。

展望: 本研究により口腔に生じた粘表皮癌の画像所見が明らかになれば、病変の早期発見に繋がるだけでなく、画像診断と病理組織診断との整合性の向上に寄与することが期待される。